陣屋って？

陣屋は様々な意味を持ちますが、小島陣屋は大名陣屋と呼ばれるものです。大名陣屋とは、城を持つことが許されなかった大名（無城主大名）が住んだ場所を指します。

明治維新の段階で陣屋を構えていた無城主大名は98家あり、小島藩主・瀧脇松平氏もその中の一つです。無城主大名の陣屋は居住地（屋敷）としての機能が主であり、通常は石垣や堀などの軍事的な機能を持たないものがほとんどでした。

藩（大名家）	小島藩（瀧脇松平氏）	上田藩（真田氏）	幕府直轄領（駿府城代）
石高	一万石（譜代大名）	五万石（準譜代大名）	二万石（大身旗本）
居住地	小島陣屋（陣屋）	上田城（城郭）	駿府城（城郭）
（現在の呼称地）	（静岡市清水区小島町）	（長野県上田市一丁目）	（静岡市葵区駿府城公園）
城下に通じる街道が可能か	できる（藩庁に屋敷が必要）	できない（藩庁に屋敷が必要）	できない（藩庁の事業として実施）

小島藩の略史

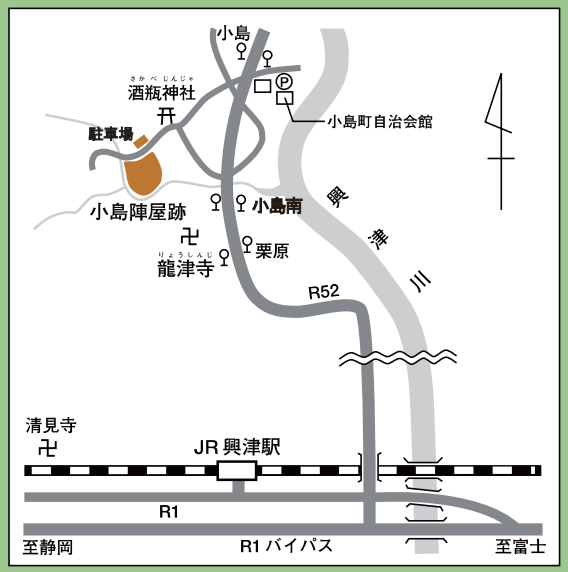
小島藩を立藩した松平氏は、三河十八松平の一家、瀧脇松平乗清を祖とします。乗清の５代末といわれる正勝は、徳川家康の御書院番として仕えた旗本で、次代重信が駿府城代へと出世し、その次の信孝の時に１万石の大名になりました。信孝を継いだ信治の時、所領が安倍、有度、庵原の３郡にまとめられたこともあり、宝永元年(1704)、駿河国庵原郡小島に陣屋を構えました。 以来164年間、 小島で藩政を行いましたが、明治元年(1868)に上総国桜井藩（現：千葉県木更津市）へ転封（配置替え）となりました。

歴代藩主

一	松平信治（のぶはる）	延宝元～享保九（一六七三～一七二四）	
二	松平信高（のぶたか）	宝永七～享保一六（一七一〇～一七三一）	
三	松平昌信（しげのぶ）	享保一三～明和八（一七二八～一七七一）	
四	松平信義（のぶのり）	寛保二～享和元（一七四二～一八〇一）	
五	松平信圭（のぶかど）	安永五～文政三（一七七六～一八二〇）	
六	松平信友（のぶとも）	寛政九～嘉永元（一七九七～一八四八）	
七	松平信賢（のぶやす）	文化五～明治六（一八〇八～一八七三）	
八	松平信進（のぶゆき）	文化十～文久三（一八一三～一八六三）	
九	松平信書（のぶなが）	弘化三～元治元（一八四六～一八六四）	
十	松平信敏（のぶとし）	嘉永四～明治一〇（一八五一～一八七七）	

▲3代藩主・昌信墓所（龍津寺境内）

※歴代藩主の墓所は東京都台東区の英信寺や西福寺と伝えられていますが、白隠禅師に深く帰依した3代藩主・昌信のみ、小島陣屋跡近くの、拈華山龍津寺に墓所があります。



交通のご案内

■駐車場　５台まで（令和６年時点）

静岡駅 →（JR東海道本線 約12分）→ 清水駅 →（JR東海道本線 約5分）→ 興津駅 →（静鉄バス 約15分）→ 小島南 ⋯（徒歩 約7分）⋯ 小島陣屋跡

ご利用案内

■書院公開日時：土日祝日（平日・年末年始は休館）
9時30分～15時30分（３月から10月）
9時30分～15時00分（11月から２月）
※荒天時に臨時休館することがあります。
■史跡小島陣屋跡公開日時：いつでも自由に見学できます
■見学は無料です。
■敷地内は火気厳禁です。
■藩主墓所は龍津寺境内地内ですので、拝観のマナーを守ってお参りください。
■出土遺物は、静岡市埋蔵文化財センター（静岡市清水区横砂東町33-2）で一部公開しています。

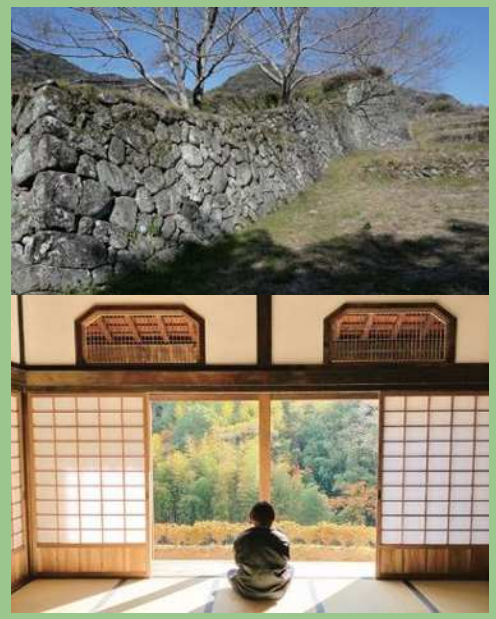
問い合わせ先

■静岡市 観光交流文化局 文化財課
〒420-8602　静岡市葵区追手町５番１号
TEL　054-221-1069
■拈華山　龍津寺
TEL　054-393-3028

編集・発行　静岡市観光交流文化局文化財課
発 行 日　令和７年２月28日

国指定史跡

小島陣屋跡



名　称　　史跡小島陣屋跡
所在地　　静岡県清水区小島本町・小島町地内
史跡指定　平成18年(2006)7月28日
指定面積　19, 243. 54㎡

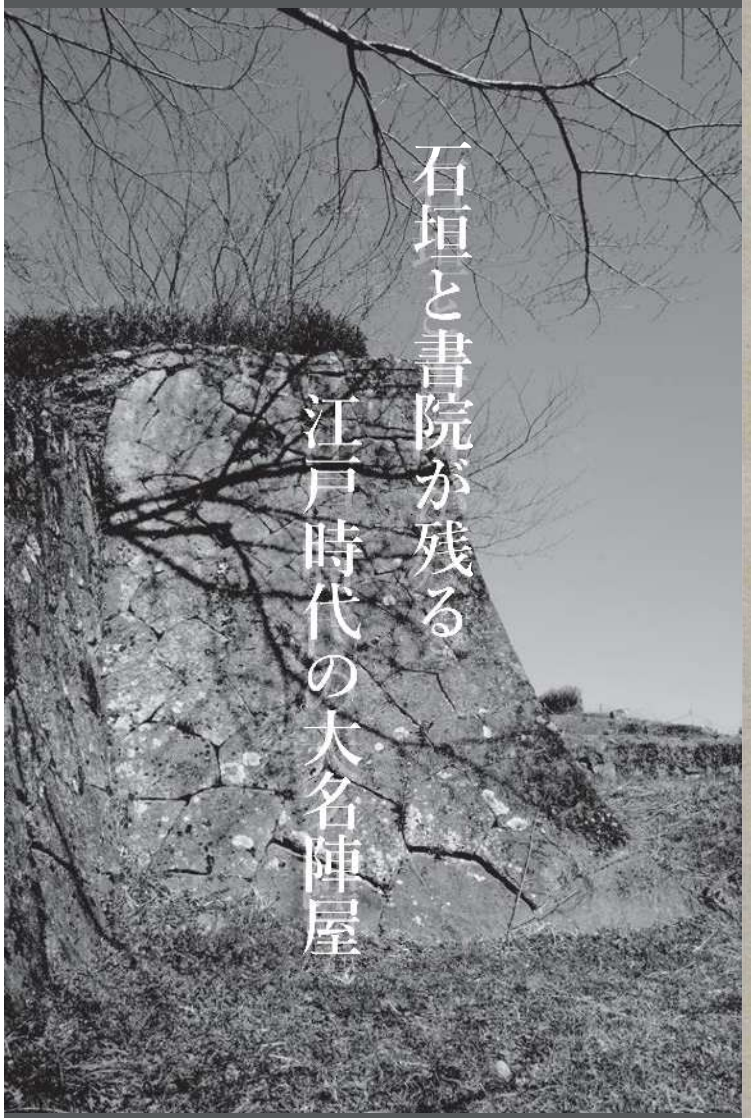
静 岡 市

国指定史跡　小島陣屋跡（おじまじんやあと）

小島陣屋は江戸時代の小島藩藩主・瀧脇松平氏が政治と生活をした場所で、宝永元年(1704)から明治維新まで164年間続きました。

発掘調査では土蔵建物跡や石段、排水路も発見されています。最大の特徴として挙げられるのは、高石垣を用いた城郭風の構造です。

江戸時代中期における大名陣屋の在り方と構造を知るうえで貴重であることから、平成18年に国の史跡に指定されました。



城郭風の造り

小島陣屋は江戸時代中期に造営された「陣屋」であるため、戦いを前提とした造りである必要はありません。しかし、石垣や桝形虎口、三段の曲輪など、まるで城郭を模したかのような造りとなっています。

３段の曲輪を持ち、小さな城郭のような造りをしています。

大手道の脇にある通路へとつながる桝形虎口（ますがたこぐち）。

時代で変わる石垣の特徴

小島陣屋跡にある石垣は、石の加工方法や積み方が異なるものがあります。

（１）陣屋が作られた時代　（２）安政の大地震後　（３）明治時代以降

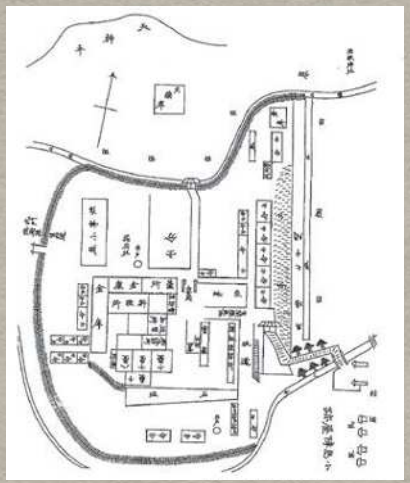
これらの異なる時代に積み直されたためです。様々な人の手で改修が行われ、現在まで受け継がれてきたことが分かります。ちなみに、石垣の石材は別当沢という近くの川で採れる砂岩が主に使われています。

主郭南西部（切込接ぎ・乱積み）

桝形虎口（打込接ぎ・乱積み）

藩士が描いた小島陣屋図

大正二年（一九一三）に刊行された『小島村誌』には、小島陣屋の略図が描かれています。この絵図は旧藩士の記憶に基づいて描かれているため、あまり正確なものではありませんが、御殿主要部にあたる南側部分（書院部分）の間取りは現存する書院と一致します。



出典：小島村誌（大正二年）

静岡市指定有形文化財

現存する「小島陣屋御殿 書院」

小島陣屋にかつてあった御殿のうち、書院部分が現存しています。この書院は、大きな藩の御殿の書院、広間、中奥を一体化した建物と考えられ、小さな藩が立てた陣屋の御殿建築を知るうえで大変貴重です。

書院の変遷

出典：『清水市立小島小学校創立百周年記念誌（1976）』

明治元年（1868）小島藩転封後、書院は小学校の校長室として使われました。

昭和３念（1928）の小学校移転に伴い書院は国道沿いに移築され、公会堂として地域の人々に愛されました。

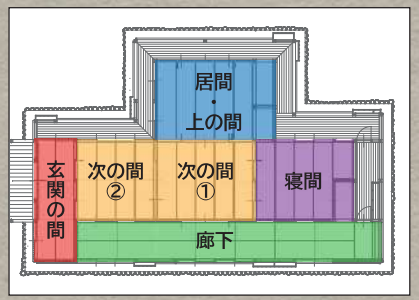
令和６年11月に移築復原工事が完了

国道沿いから元の位置に戻し、幕末の姿に復原しました。

江戸時代から残存していた部材を、約８～９割使用しています（柱や天井板、床板など）。

また、建物の南側と西側の屋根の一部には江戸時代の瓦を使い、新しい瓦も古い瓦に合わせて型を作り、同じ瓦を制作しました。

書院の変遷



寝間

藩主が寝室として使ったと考えられる部屋。

居間・上の間

藩主が主に政務をした部屋と考えられています。部屋の側面に床の間があることから、対面空間としての機能はあまりなかったと考えられています。

次の間①、②

大藩の御殿の「広間」と同様の機能を持ち、藩主との対面空間として使われていたと考えられています。